

平成29・30年度
船橋市防災アセスメント調査
(地震被害想定)

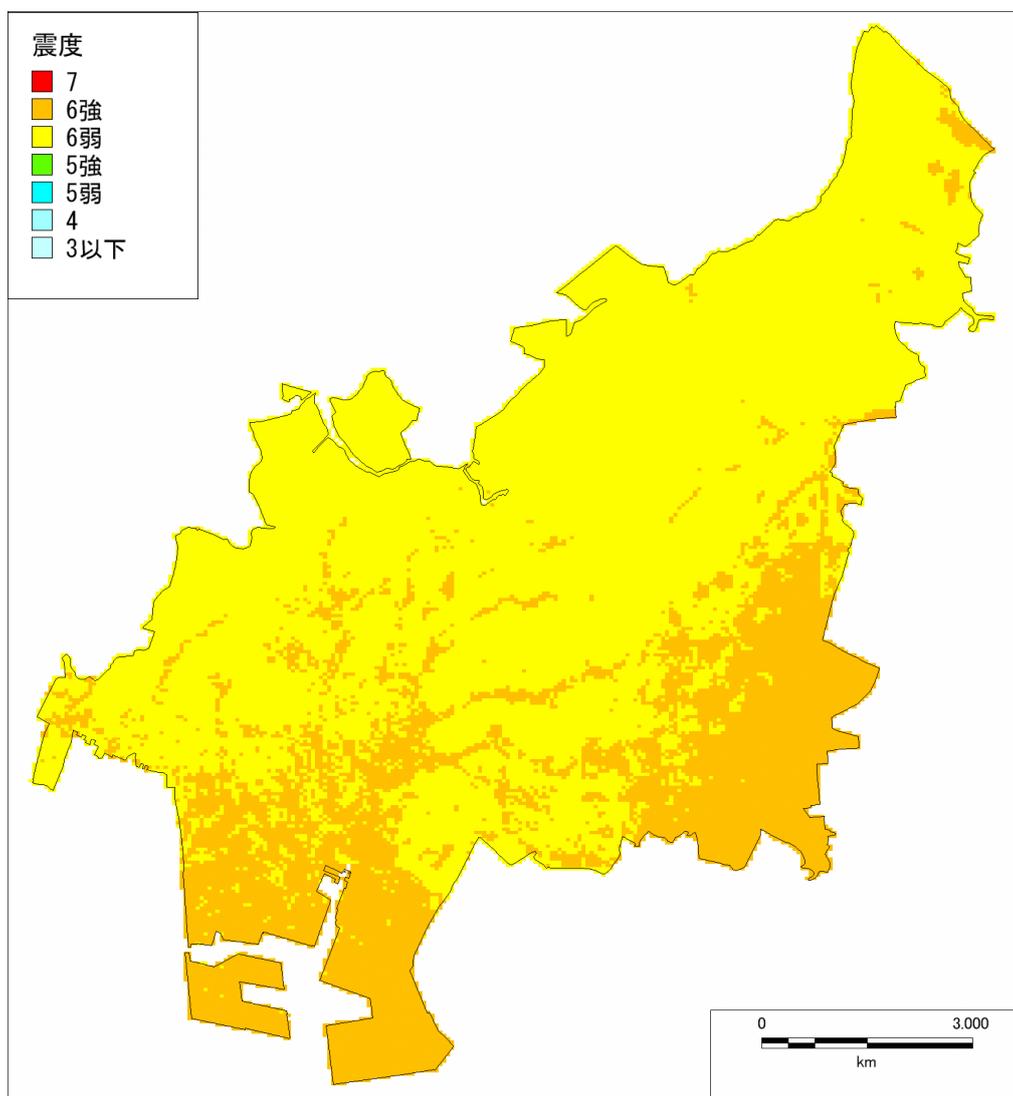
報告書概要(抜粋)

予測結果

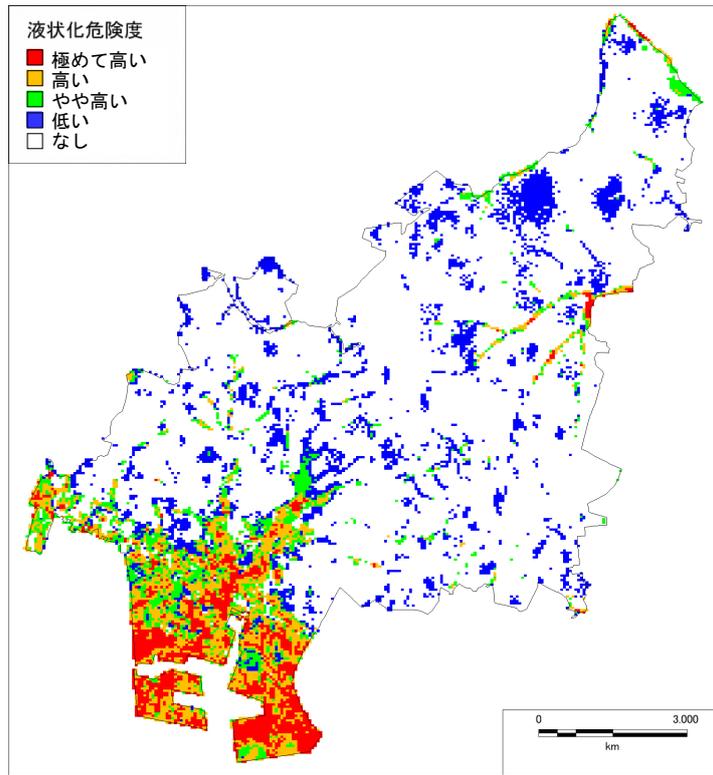
千葉県北西部直下地震では、市南側の低地部及び市東部の低地～台地部の幅広い範囲で震度6強を示す。また、台地上の谷底低地の一部においても震度6強を示す。それ以外の範囲では、震度6弱となる。

千葉県（2016）⁴による250mメッシュでの想定結果と比較すると、概ね震度分布の傾向は一致している。今回の想定では新たに提供されたボーリングデータを用いて50mメッシュの地盤モデルを作成して計算しており、より詳細な地形の効果を反映した震度分布になっていると考えられる。

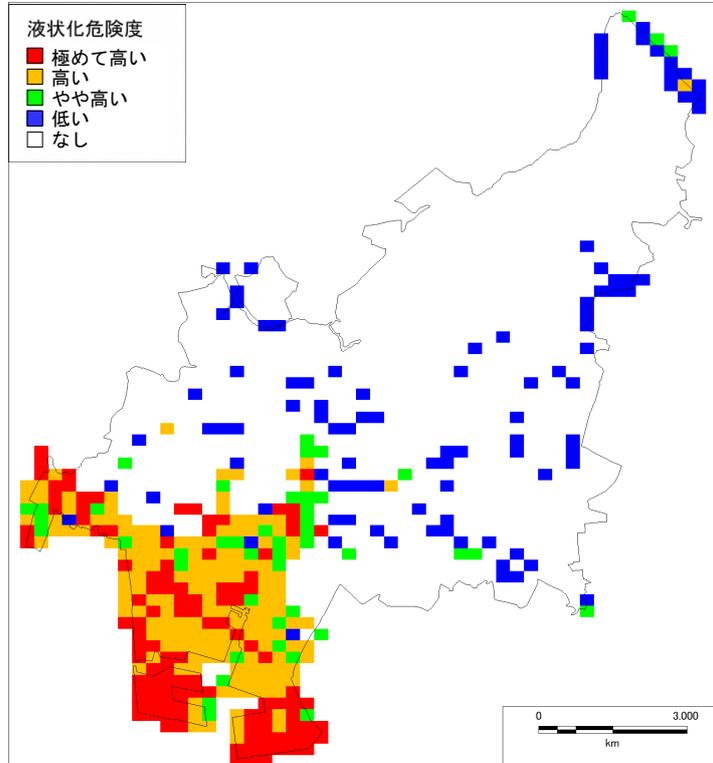
千葉県北西部直下地震 地表震度分布（50mメッシュ）



液状化危険度（千葉県北西部直下地震）



(参考) 液状化危険度（千葉県北西部直下地震・千葉県(2016)⁴⁾



※東北地方太平洋沖地震において液状化被害を受けた教訓を踏まえ、本市では、千葉県(2016)⁴⁾の液状化危険度の表記の「高い」を「極めて高い」、「やや高い」を「高い」、「低い」を「やや高い」、「極めて低い」を「低い」と表記した。

5 建物被害の想定

予測の考え方

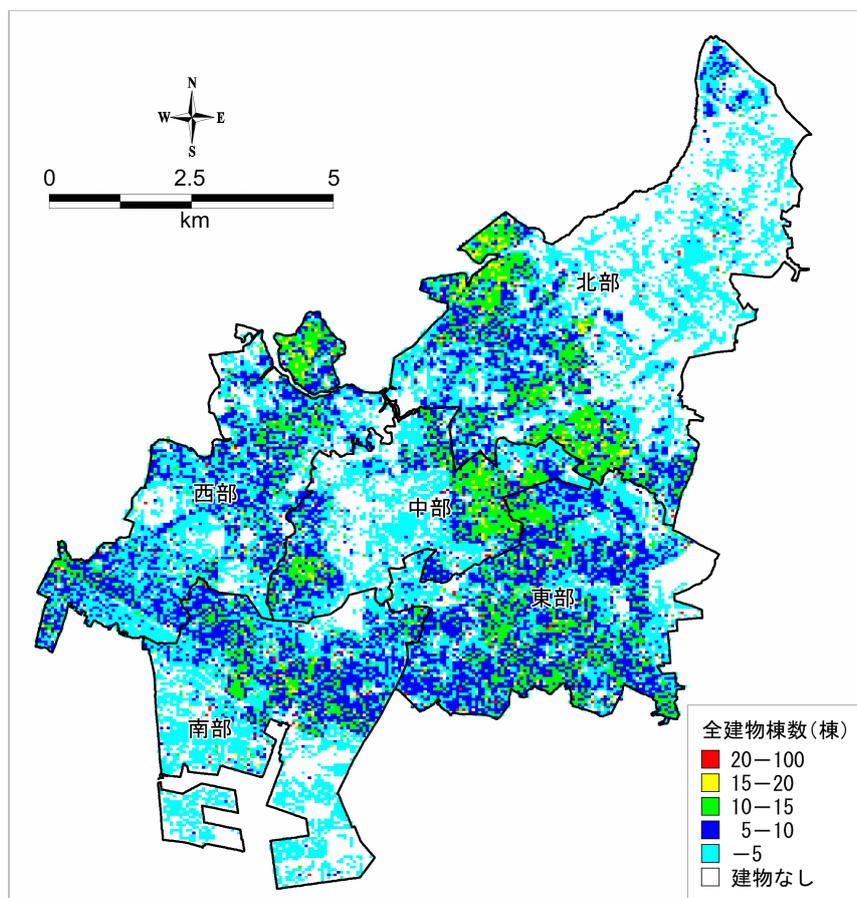
地震に伴う揺れや液状化、急傾斜地崩壊によって、住宅などの建物が倒壊し、大きな被害が発生する。被害の程度は建物の構造、建築年代、階層によって大きく異なり、特に新耐震基準が導入された昭和 56 年以前に建築された木造住宅では兵庫県南部地震で見られたように大きな被害が予測される。

このようなことを踏まえ、本章では本市が所有する**建物リスト***を基に、詳細な構造・建築年代・階層別の建物現況データを作成し、これを基に市内における揺れによる建物被害を算出した。

建物の現況

建物データは平成 29 年の固定資産税課税台帳の建物の建築年、構造、階層を整理した。本調査で用いた建物データの総数は約 14 万棟で、うち木造が約 11 万棟、非木造が約 3 万棟である。

50m メッシュ別の建物棟数分布



*建物リスト：本市が所有する、平成 29 年時点の構造・建築年・用途別の建物の一覧表。